

新城市交通量調査業務委託報告書

新城市

目次

1. 調査の概要.....	1
(1)調査の目的.....	1
(2)調査日時.....	1
(3)その他.....	1
(4)調査箇所.....	1
2. 交通量調査結果.....	2
(1)名号交差点.....	2
(2)長篠交差点.....	6
(3)有海交差点.....	10
(4)杉山北交差点.....	14
(5)一鍬田畠中交差点.....	18
3. 自動車交通量全体図(12時間交通量).....	22
4. 調査結果のまとめ.....	23

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

三遠南信自動車道鳳来峡 I C の開通以降の交通実態を明らかにし、本市の観光振興策を検討するために交通量調査を実施し、結果の分析及び平成 22 年道路交通センサス交通量調査結果、平成 24 年度新城市の観光に関する交通量調査結果との比較を行った。

(2) 調査日時

下記の調査日、時間帯で調査を実施した。

調査日：平成 25 年 11 月 27 (水)

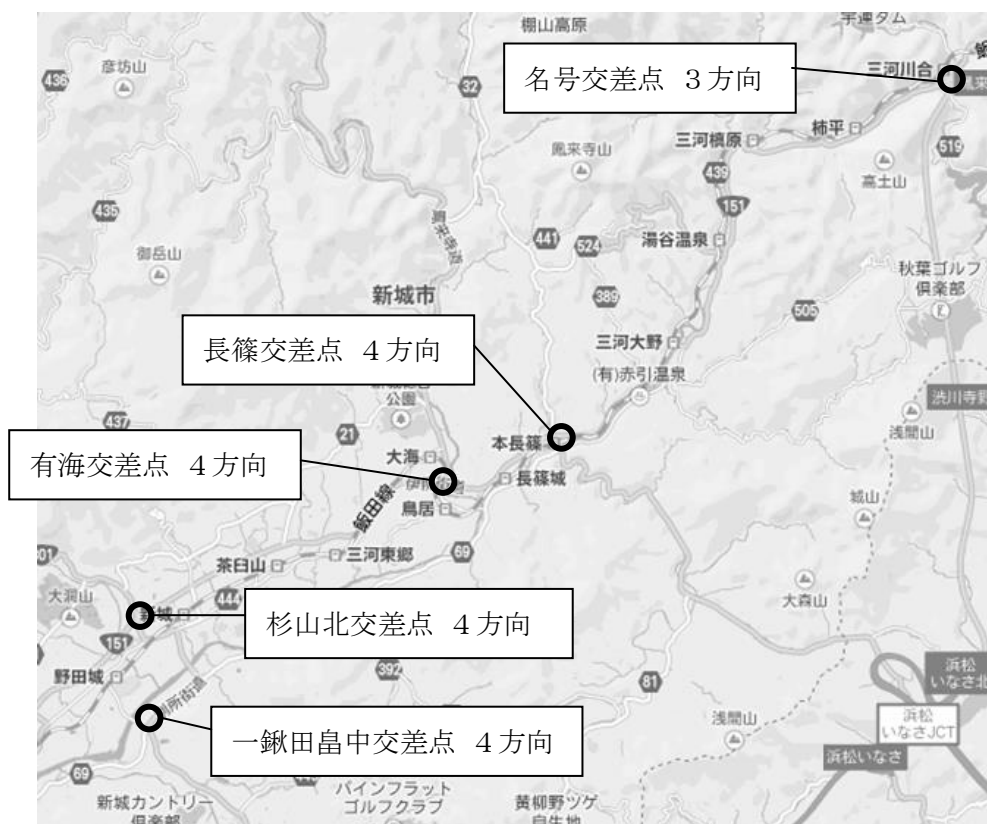
時間帯：7 : 00 ~ 19 : 00

(3) その他

調査対象となる車種区分は、小型車、大型車、二輪車（自転車含む）の 3 車種とした。

(4) 調査箇所

調査箇所は下図に示す 5 交差点とした。



2. 交通量調査結果

(1) 名号交差点

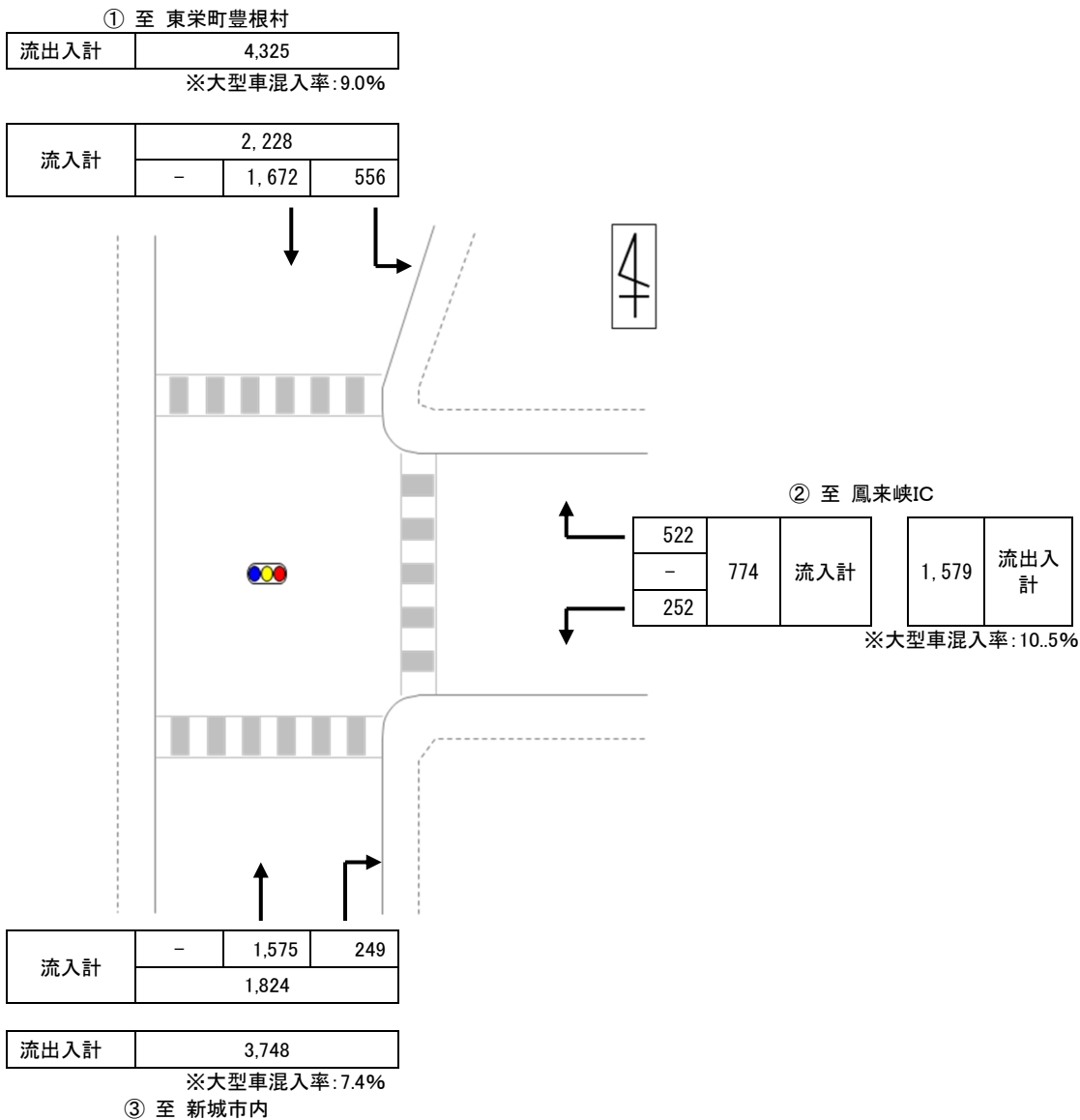
■ 方向別交通量現況

自動車の交通量は地点①は流入、流出ともに2,000台程度であった。また、地点②は800台程度、地点③は1,800台程度であった。

地点ごとの流出入交通における大型車混入率は地点①は9.0%、地点②は10.5%、地点③は7.4%と地点別で大きな差はない。

また、二輪車の流出入交通量は地点①が25台、地点②が16台、地点③が27台であった。東栄町豊根村、新城市内への南北方向の交通量が多い。

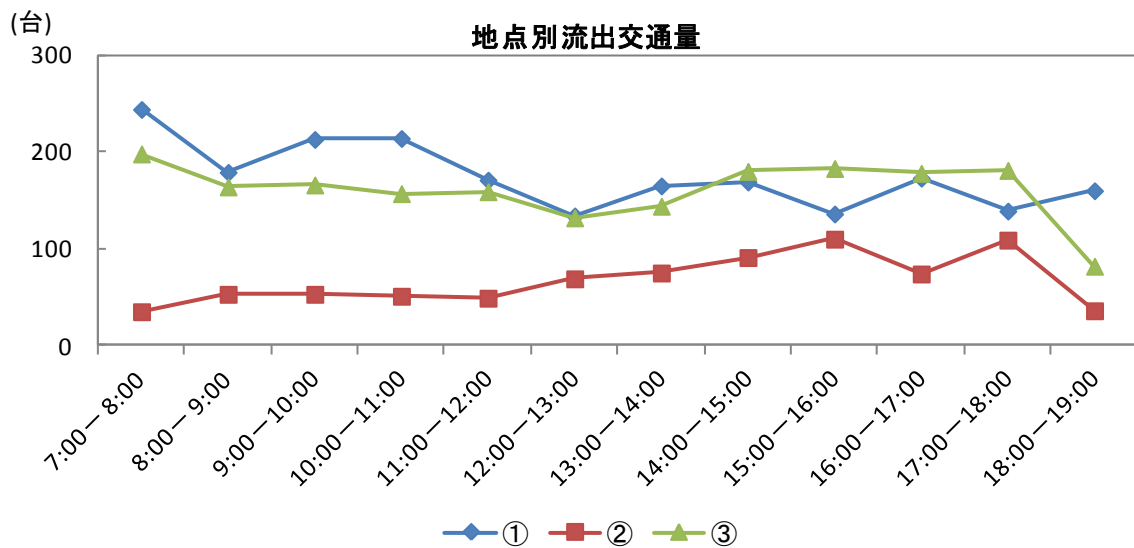
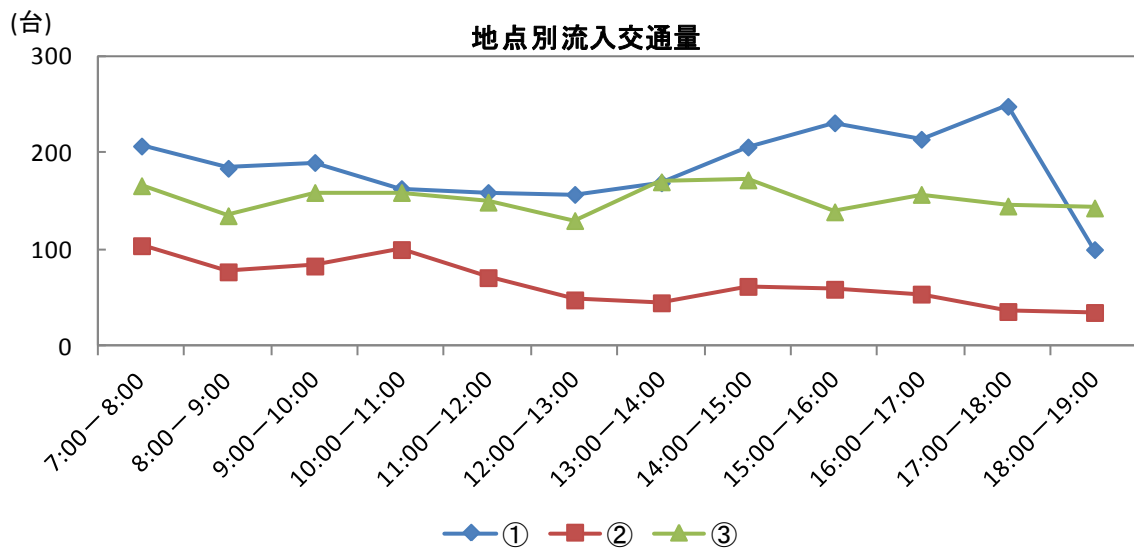
【自動車の地点別、方向別交通量の概況】



■ 時間帯別方向別自動車交通量

時間帯別の流入、流出自動車交通量を整理した。地点①は流入交通量は午後が多い傾向にあり、流出交通量は午前が多いことから、午前は豊根村方面へ向かい、午後は逆に元の場所へ戻っていると考えられる。この傾向は地点②では逆であることから、午前は鳳来峡 IC から豊根村方面や新城市内へ向かい、午後は逆に元の場所へ戻っていると考えられる。

また、地点③については、地点①、②ほど時間による変化はないことから、通勤などのピーク時の交通が鳳来峡 IC－豊根村方面のルートを利用していると考えられる。

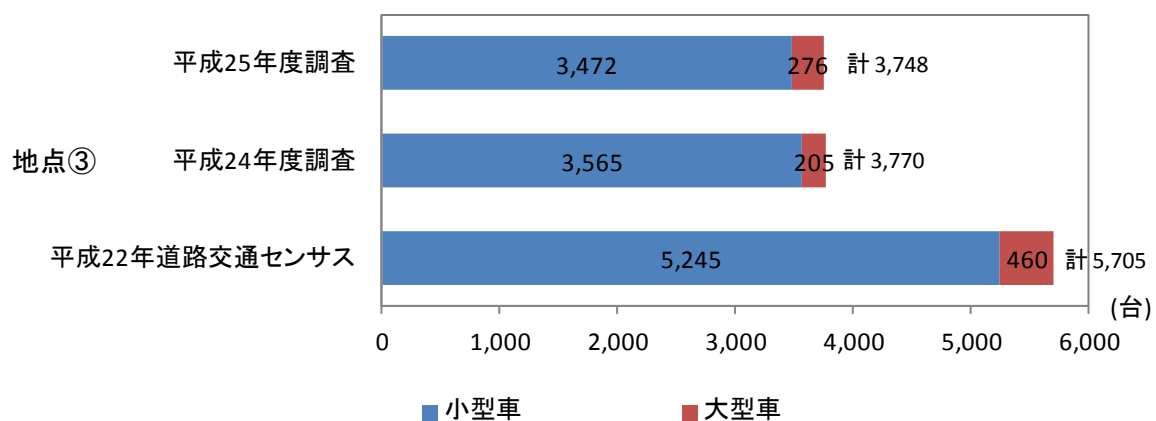
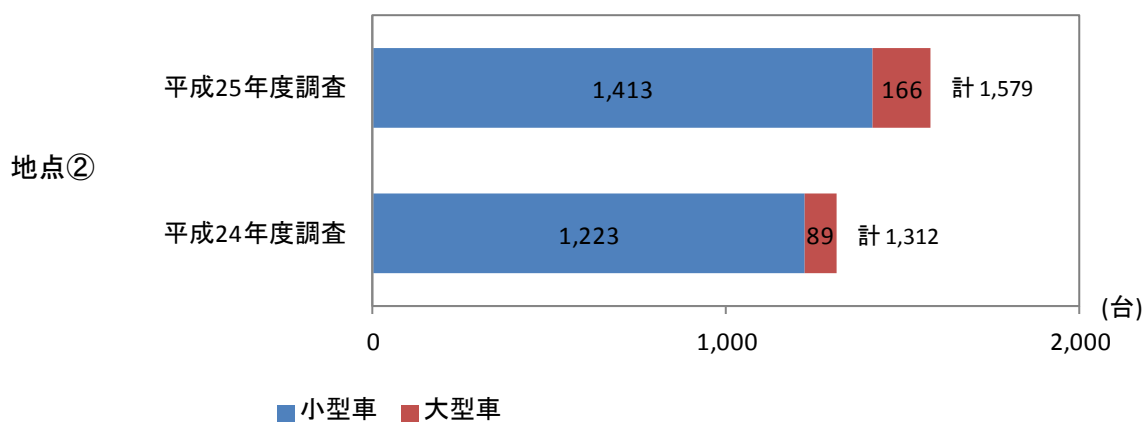
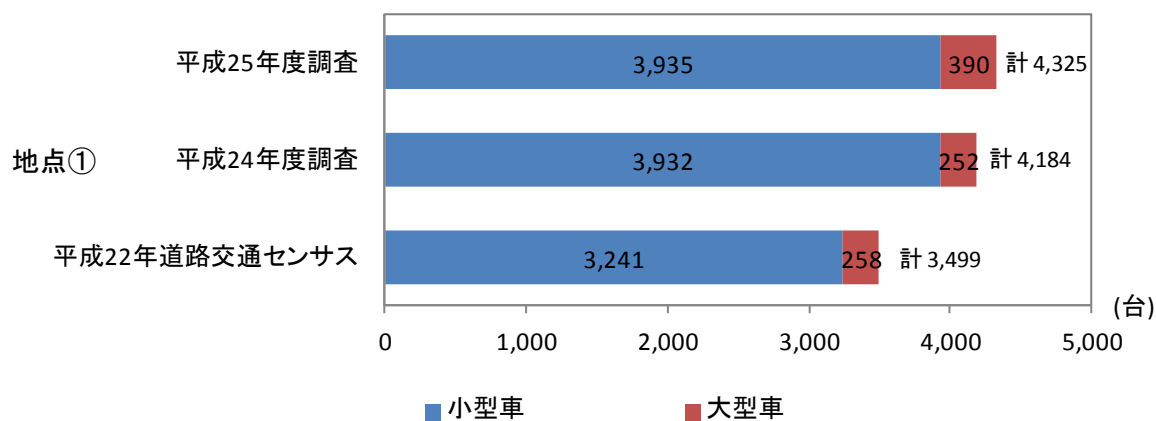


■ 流出入自動車交通量の変化 (H22 年、H24 年度との比較)

流出入交通量の変化を見ると、地点①は平成 22 年、平成 24 年に比べ増加している。地点②も平成 24 年度より、大型車、小型車ともに増加している。地点③は平成 22 年と比較すると減少しているが、平成 24 年度とは大きな差はない。

平成 22 年と比較して、大型車は地点①は増加し、地点③は減少している。

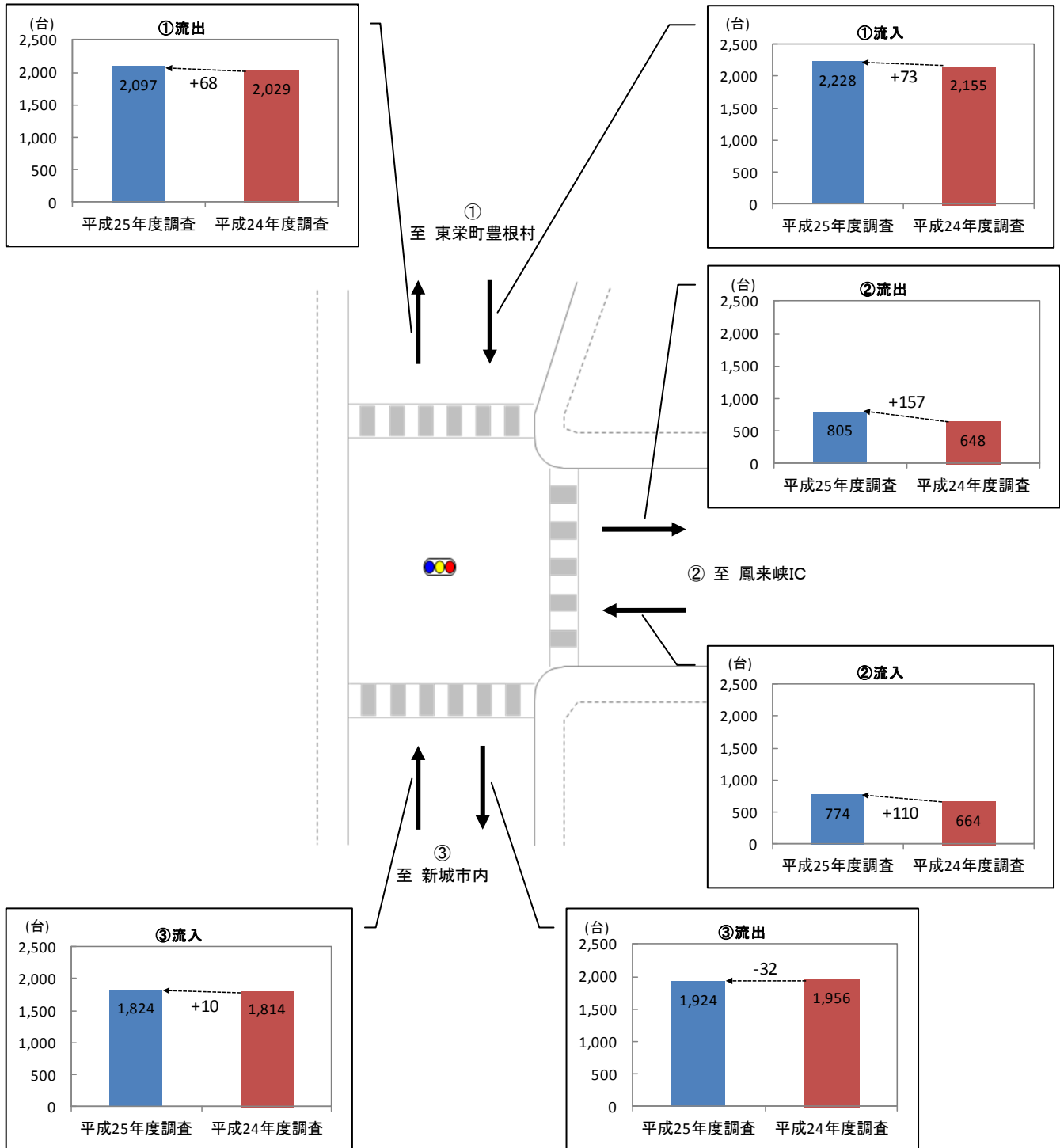
自動車が新城市内を通過せず、鳳来峡 IC を利用するようになったと考えられる。



■ 方向別自動車交通量の変化(H24年度との比較)

地点①、②流入、流出交通量が増加している。特に地点②増加量が顕著である。一方で、地点③は大きな変化がみられない。

このことから、名号交差点では自動車が新城市内を通過せず、鳳来峡ICを利用するようになったと考えられる。



(2) 長篠交差点

■ 方向別交通量現況

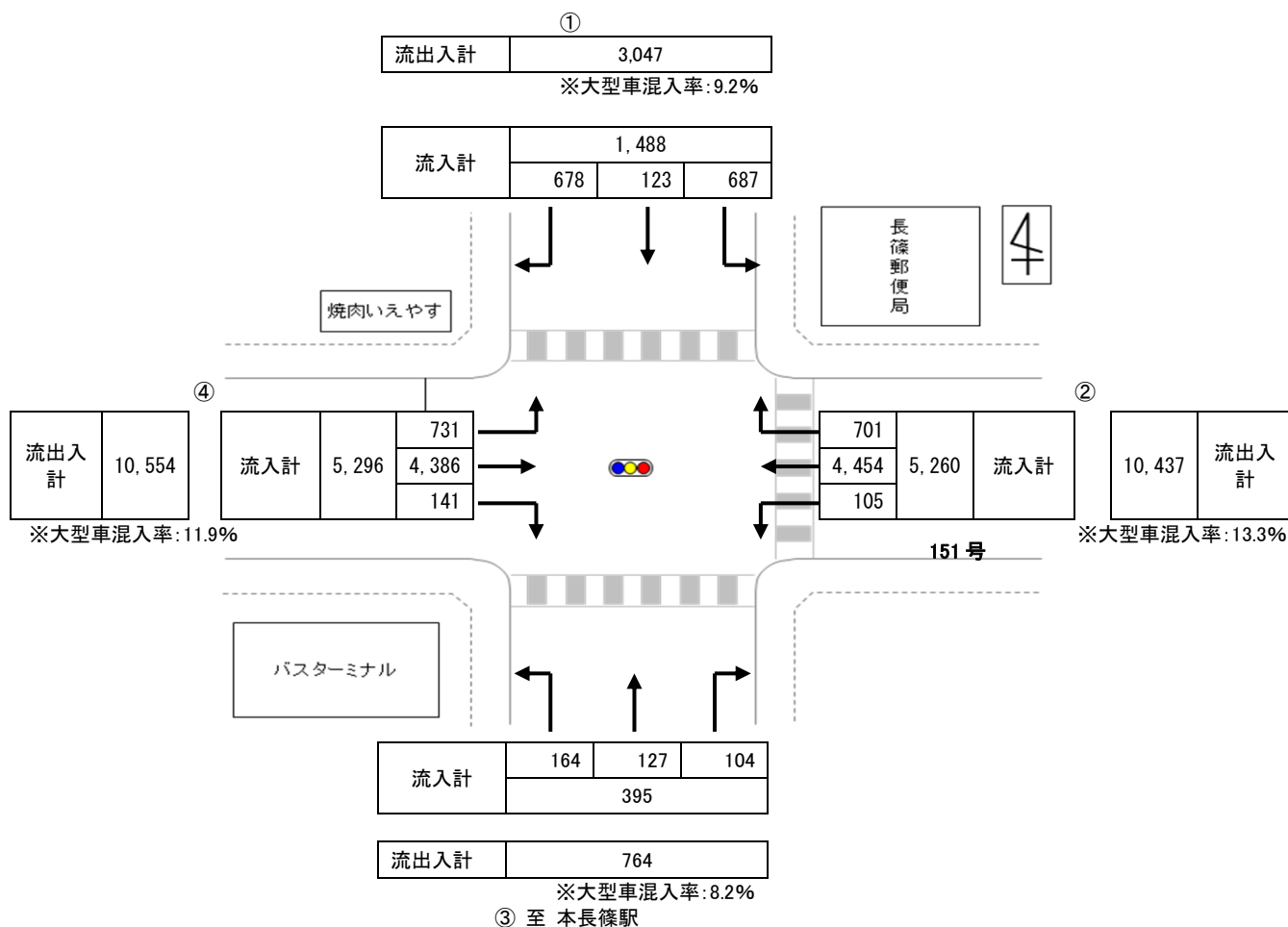
自動車の交通量は地点①は流入、流出ともに 1,500 台程度、地点②は 5,000 台程度、地点③は流入、流出ともに 400 台程度、地点④は流入、流出ともに 5,000 台程度であった。

流出入交通量における大型車混入率は地点①は 9.2%、地点②は 13.3%、地点③は 8.2%、地点④は 11.9%であり、地点による大きな差はみられない。

二輪車の流出入交通量は地点①が 71 台、地点②が 103 台、地点③が 6 台、地点④が 68 台であった。

車種にかかわらず、151 号線を通る東西方向の交通量が多い。

【自動車の地点別、方向別交通量の概況】



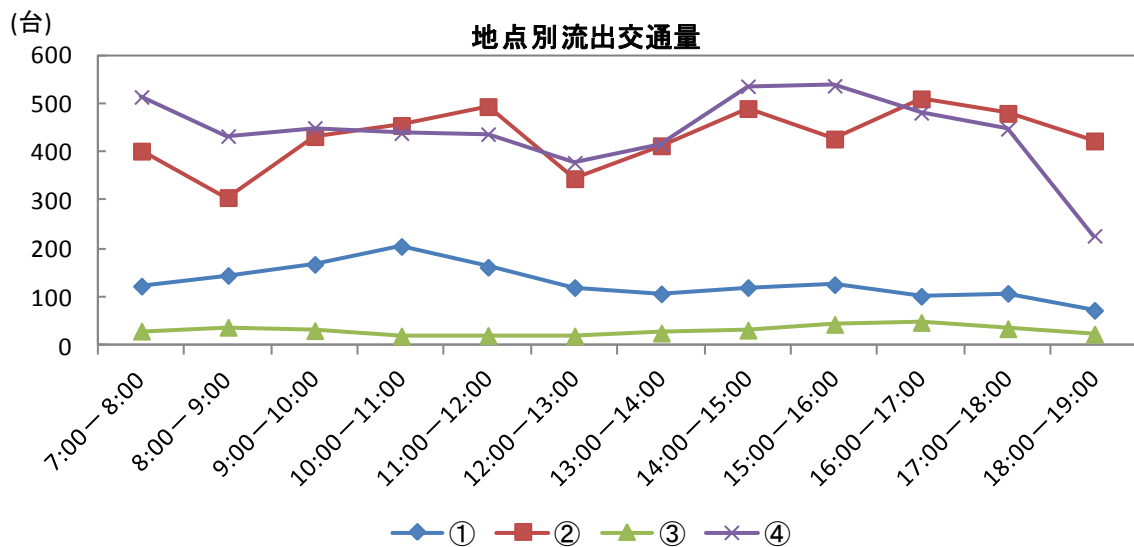
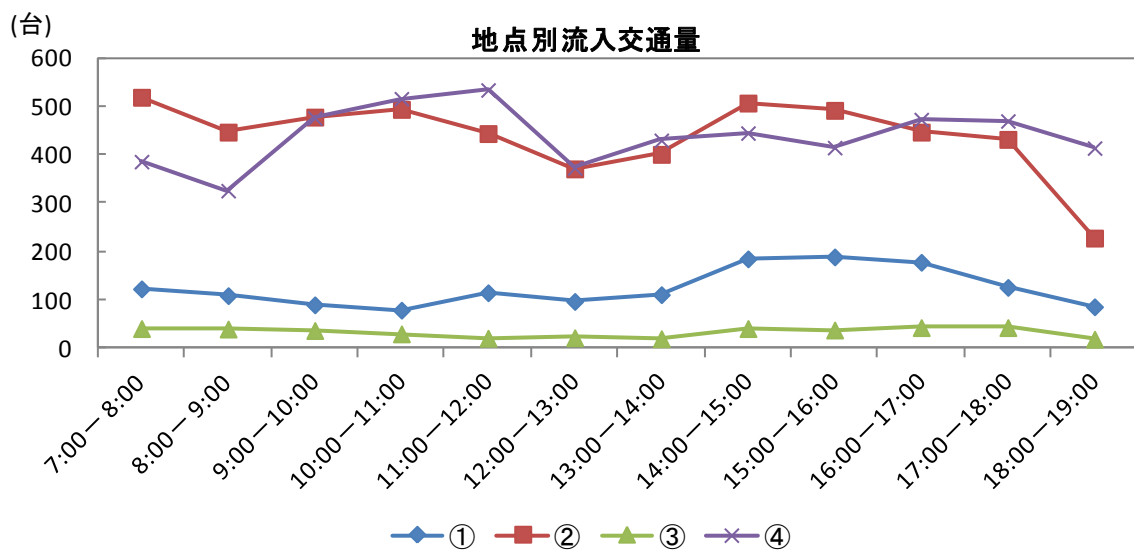
■ 時間帯別方向別自動車交通量

時間帯別の流入、流出交通量を整理した。

東方向（地点②の流出交通量、地点④の流入交通量）の交通は11:00～12:00と16:00～18:00にピークがあり、西方向の交通（地点②の流入交通量、地点④の流出交通量）は7:00～8:00と14:00～15:00にピークが存在する。時間帯から通勤、業務、帰宅といった目的で東西方向の交通が行われていると考えられる。

北方向の交通は地点①の流入は午後が、流出は午前が交通量が多い傾向がみられ、午前には北に向かい、午後には市内に戻る業務等を目的とした交通が行われていると考えられる。

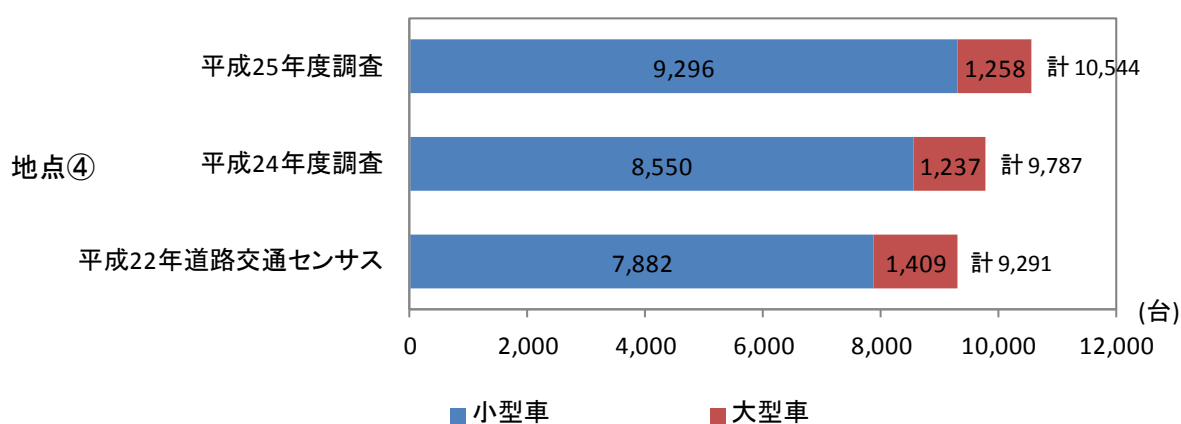
南方向は、交通量が少なく時間による変化もあまり見られない。



■ 流出入自動車交通量の変化 (H22 年、H24 年度との比較)

地点④の流出入交通量は平成 22 年、平成 25 年度と比較して増加している。一方で大型車の流出入交通量は、平成 22 年から 249 台減少している。

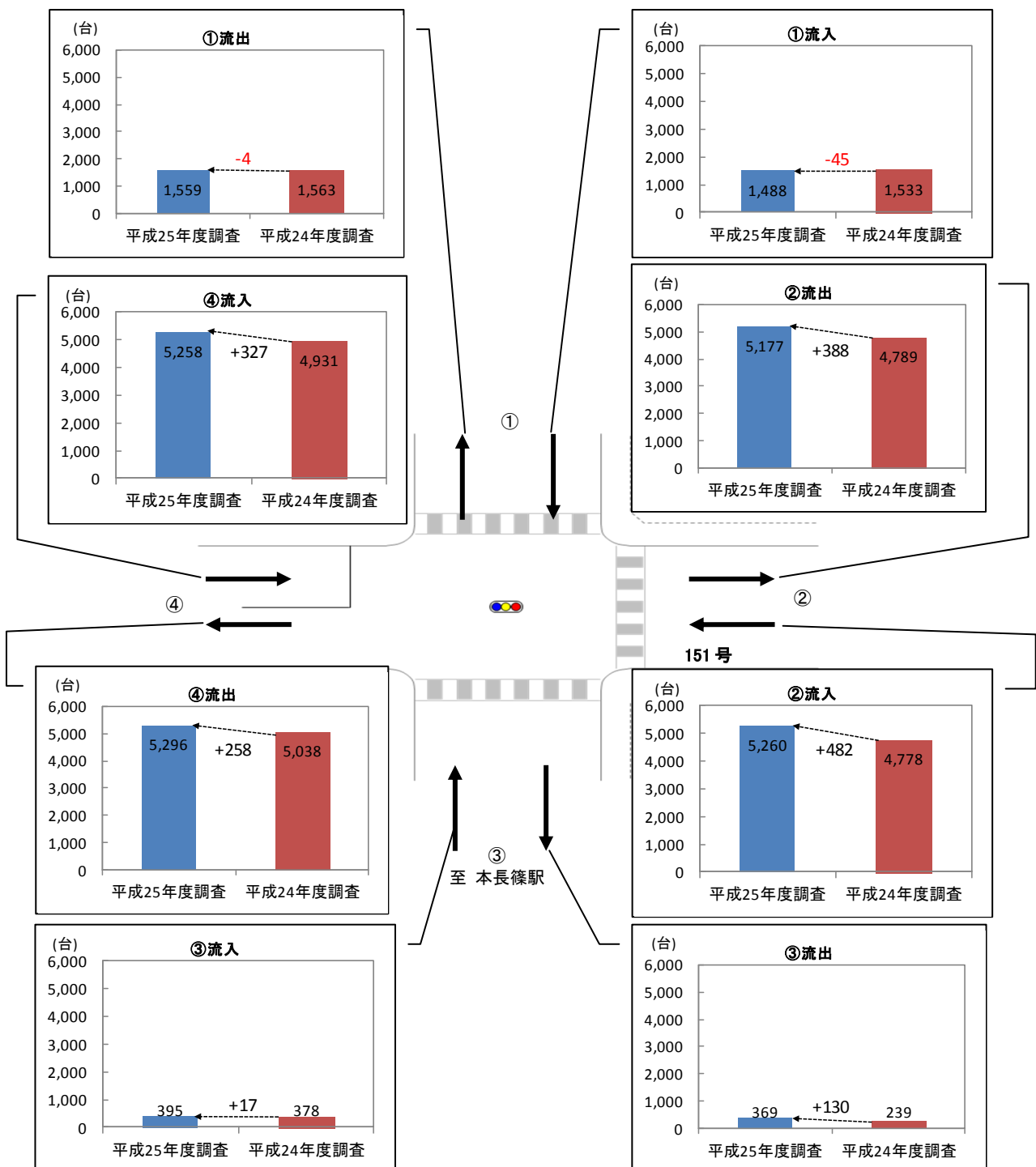
地点④の東側には国道 151 号と新東名高速道路を結ぶ国道 257 号が接続していることや名号交差点の新城市街地方面の流出入交通量は減少していることから浜松いなさ JCT の供用開始により、新城市を通る交通量が増えたことや、貨物車等が市街地を通行せず新東名高速道路を利用するようになった可能性が考えられる。



■ 方向別自動車交通量の変化(H24年度との比較)

地点②、④の東西方向の交通量が非常に大きく増加していると考えられる。地点②と地点④を比べると、地点②の方が地点④より、流入、流出ともに増加量が大きいことから、長篠交差点では平成24年度に比べて、東西方向の交通が増えただけでなく南北方向の東方向からの(への)交通量が増えたと考えられる。

これらの交通量の増加は、浜松いなさJCTの供用開始により、新東名高速道路からの(への)交通量が増えたためと考えられる。



(3) 有海交差点

■ 方向別交通量現況

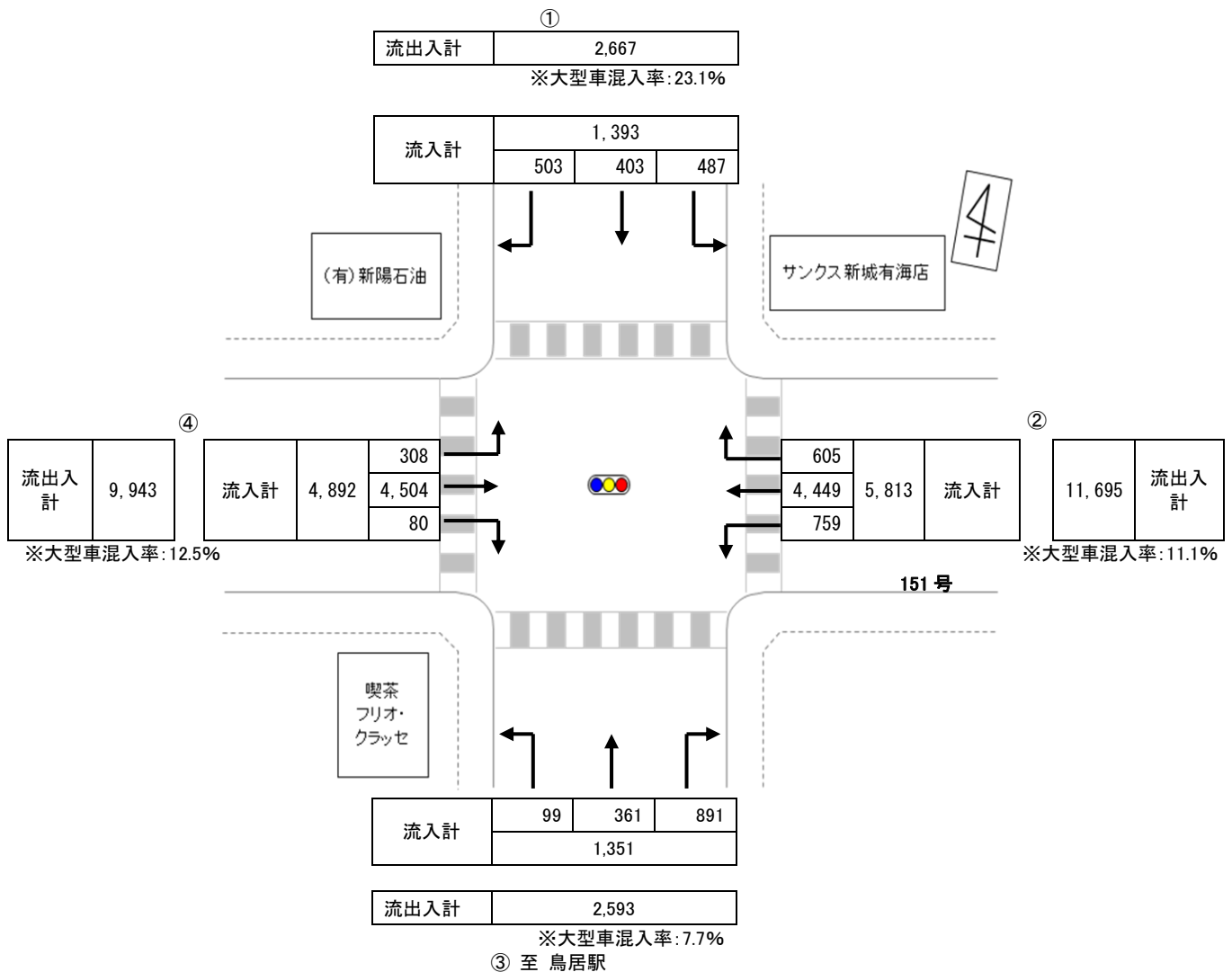
自動車の交通量は地点①は流入が 1,400 台、流出が 1,300 台程度であった。地点②は流入、流出ともに 6,000 台程度であった。地点③は流入が 1,400 台、流出が 1,200 台程度であった。地点④は流入、流出ともに 5,000 台程度であった。

流出入交通量における大型車混入率は地点①は 23.1%、地点②は 11.1%、地点③は 7.7%、地点④は 12.5%であった。

二輪車の流出入交通量は地点①が 12 台、地点②が 67 台、地点③が 21 台、地点④が 58 台であった。

車種にかかわらず、151 号線を通る東西方向の交通量が多い。

【自動車の地点別、方向別交通量の概況】



■ 時間帯別方向別自動車交通量

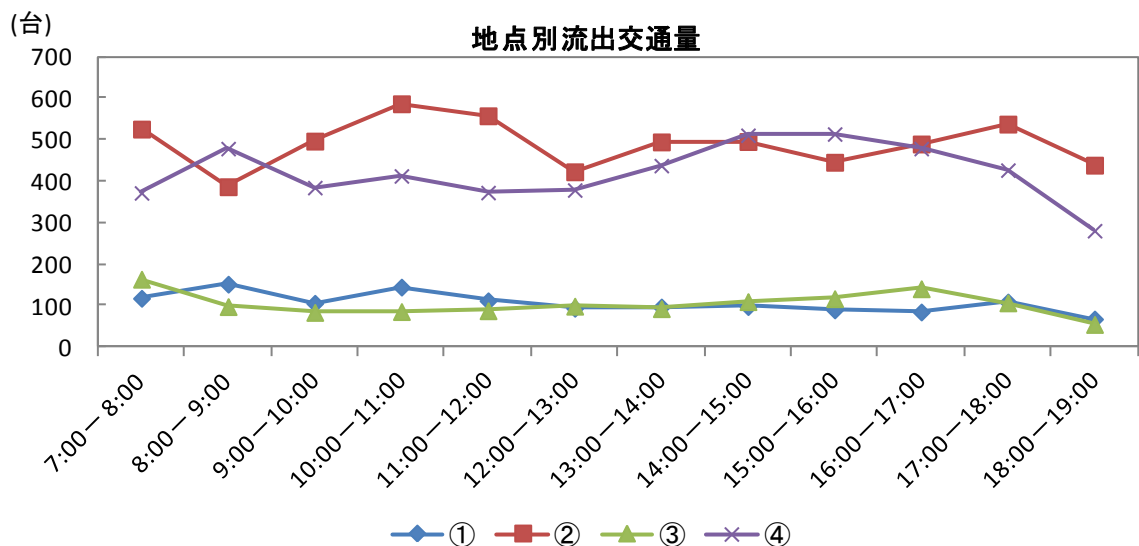
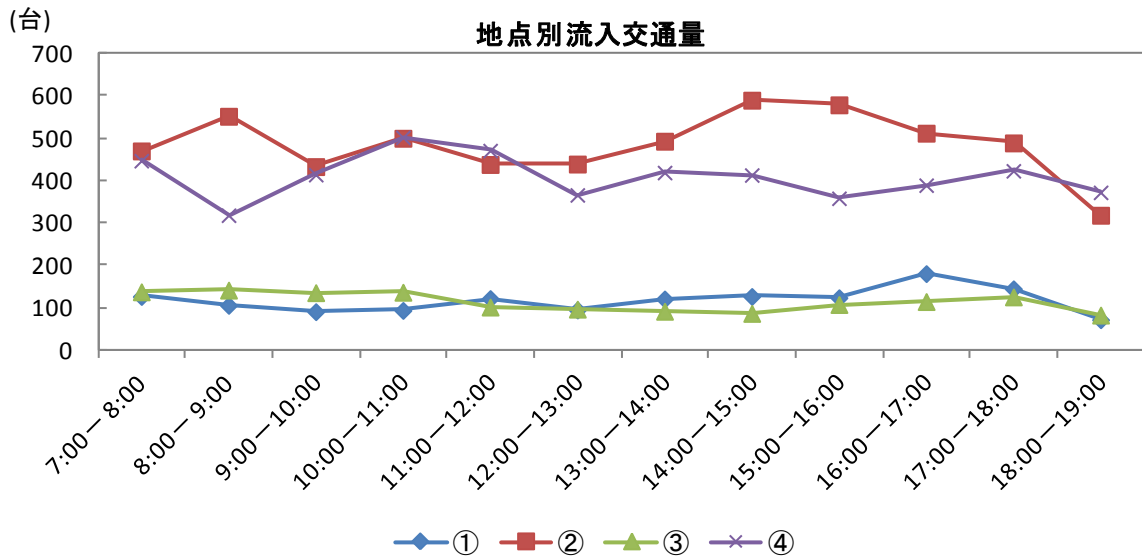
時間帯別の流入、流出交通量を整理した。

東方向の交通量の推移をみると、ピーク時間帯は地点②の流出と地点④の流入とも 10:00~11:00 と 17:00~18:00 にあるものの、全ての時間帯で地点②の流出の方が地点④の流入より 50~100 台程度多い。

西方向の交通量についても、同様の傾向がみられ地点②の流入と地点④の流出ともに、8:00~9:00 と 14:00~15:00 にピークがあるものの、全ての時間帯で地点②の流入の方が地点④の流出より 50~100 台程度多い。

南北方向は（地点①、③）は流入、流出ともに時間によらず 100~200 台程度であり、時間帯毎の特徴はみられない。

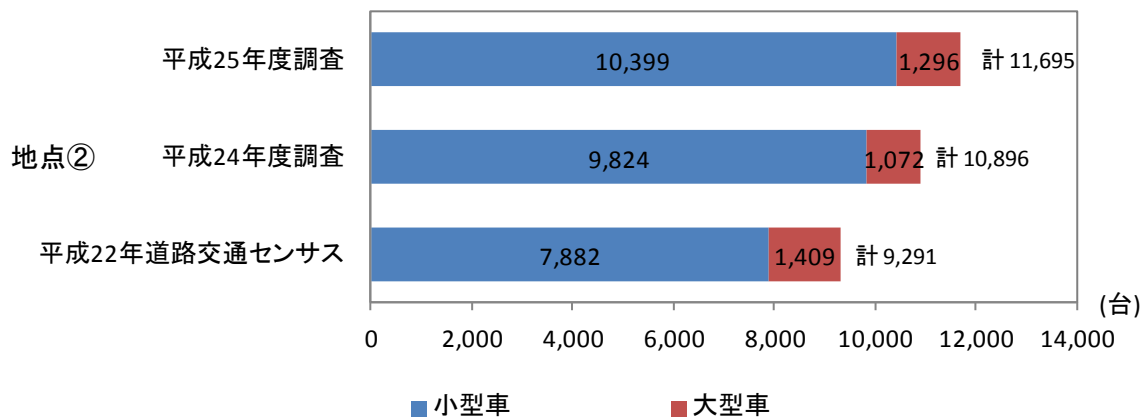
これらのことから、有海交差点では、南北方向の交通は西方向よりも、東方向を利用する交通が多いといえる。



■ 流出入自動車交通量の変化(H22年、H24年度との比較)

地点②の流出入交通量は平成22年、平成25年度と比較して増加している。一方で大型車の流出入交通量は、平成22年から113台減少している。

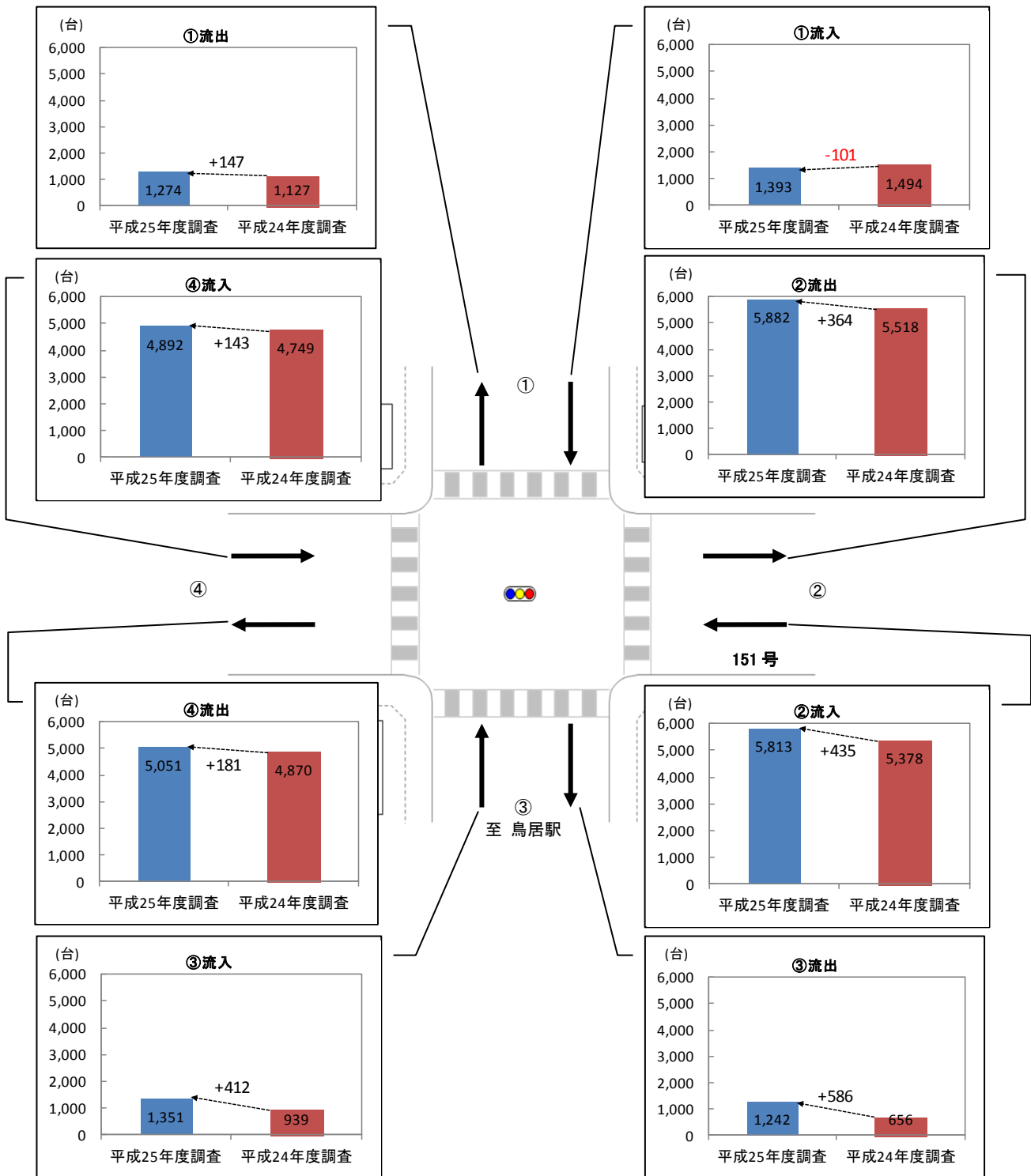
このことと長篠交差点の地点④の比較結果から、長篠交差点～有海交差点の間を通過する自動車は増えているものの、大型車は減っていると言える。



■ 方向別自動車交通量の変化(H24年度との比較)

地点②、③が流入、流出ともに非常に大きく増加している。地点①は流出が微増、流入が微減している。地点③は流入、流出ともに微増している。

地点②、③の増加量が同程度であることから、国道 151 号（東側）から鳥居駅に向かう、及び、その逆方向の交通が増えたと考えられる。



(4) 杉山北交差点

■ 方向別交通量現況

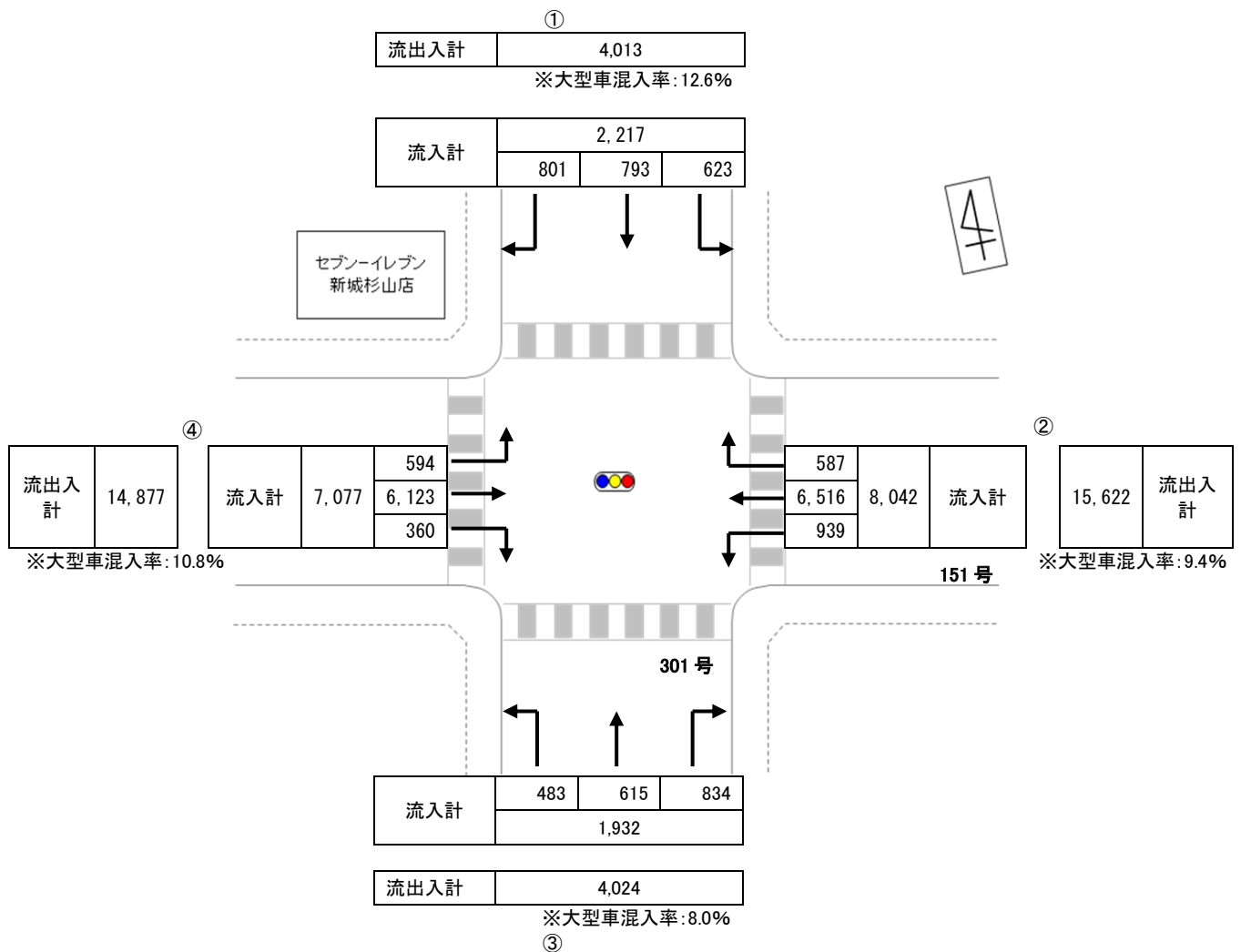
自動車の交通量は地点①は流入、流出ともに 2,000 台程度であった。地点②は流入、流出ともに 8,000 台程度であった。地点③は流入、流出ともに 2,000 台程度であった。地点④は流入は 7,000 台、流出は 8,000 台程度であった。

流出入交通量における大型車混入率は地点①は 12.6%、地点②は 9.4%、地点③は 8.0%、地点④は 10.8%と大きな差はない。

二輪車の流出入交通量は地点①が 79 台、地点②が 125 台、地点③が 34 台、地点④が 120 台であった。

車種にかかわらず、151 号線を通る東西方向の交通量が多い。

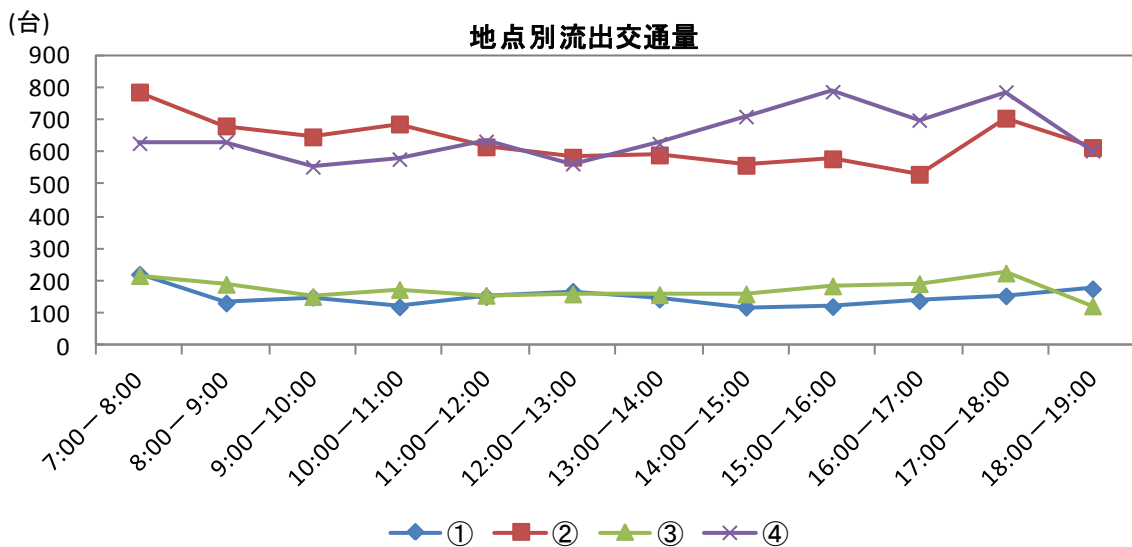
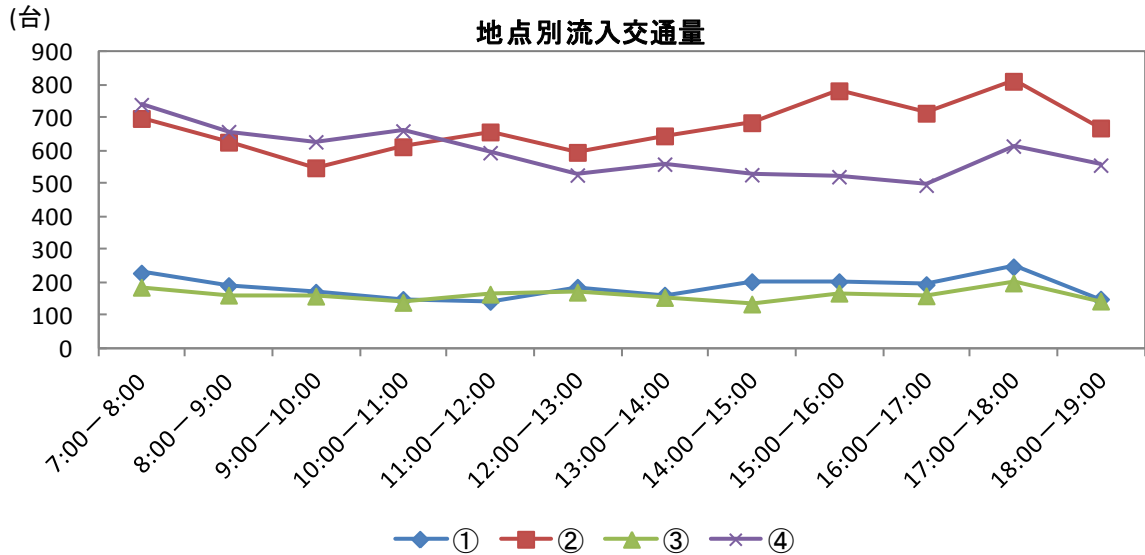
【自動車の地点別、方向別交通量の概況】



■ 時間帯別方向別自動車交通量

時間帯別の流出交通量を整理した。

東方向（地点②の流出交通量、地点④の流入交通量）の交通は7:00～12:00と17:00～18:00にピークがあり、西方向の交通（地点②の流入交通量、地点④の流出交通量）は7:00～8:00と15:00～16:00にピークが存在し、ほぼ、同じように推移している。時間帯から通勤、帰宅といった目的で新都市の市街地内外の東西方向の交通が行われていると考えられる。

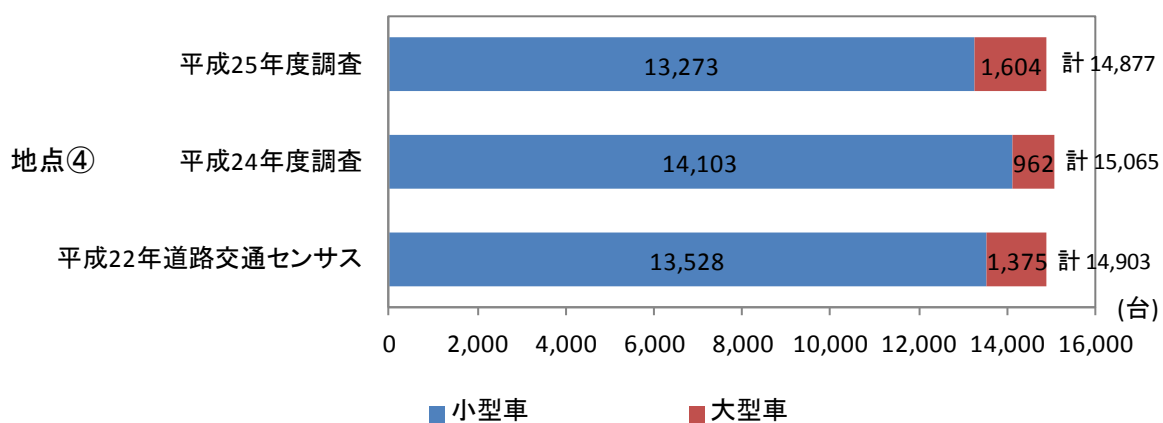


■ 流出入自動車交通量の変化 (H22 年、H24 年度との比較)

地点④の流出入交通量は平成 22 年、平成 24 年度と比較して減少しているものの、大きな変化はみられない。

一方で、大型車の交通量は平成 22 年と比べて、229 台増加している。

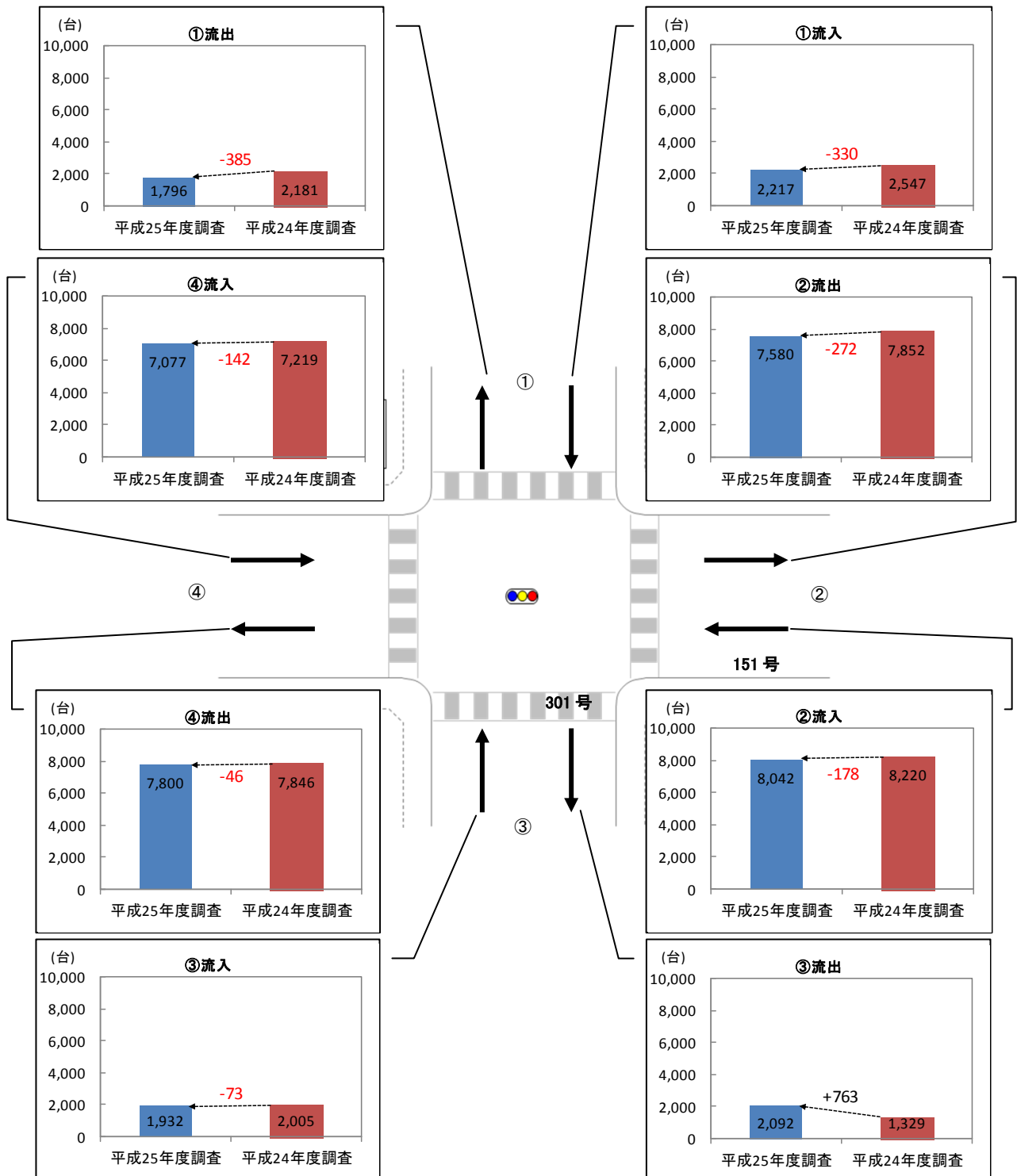
このことから、西側の流出入は変化がほぼないことが分かる



■ 方向別自動車交通量の変化(H24年度との比較)

地点③の流出交通量が非常に大きく増加している。また、地点①の流入、流出交通量の減少量も大きい。

地点③は平成24年度の流入交通量は2,005台、流出交通量が1,329台であり、平成25年度の流入交通量は1,932台、流出交通量が2,092台であることから、平成24年度は新城市南警察署前交差点など別の地点から、新城市市街地南方向に向かう交通が行われていたものが、杉山北交差点を利用するようになったと考えられる。



(5) 一鍬田島中交差点

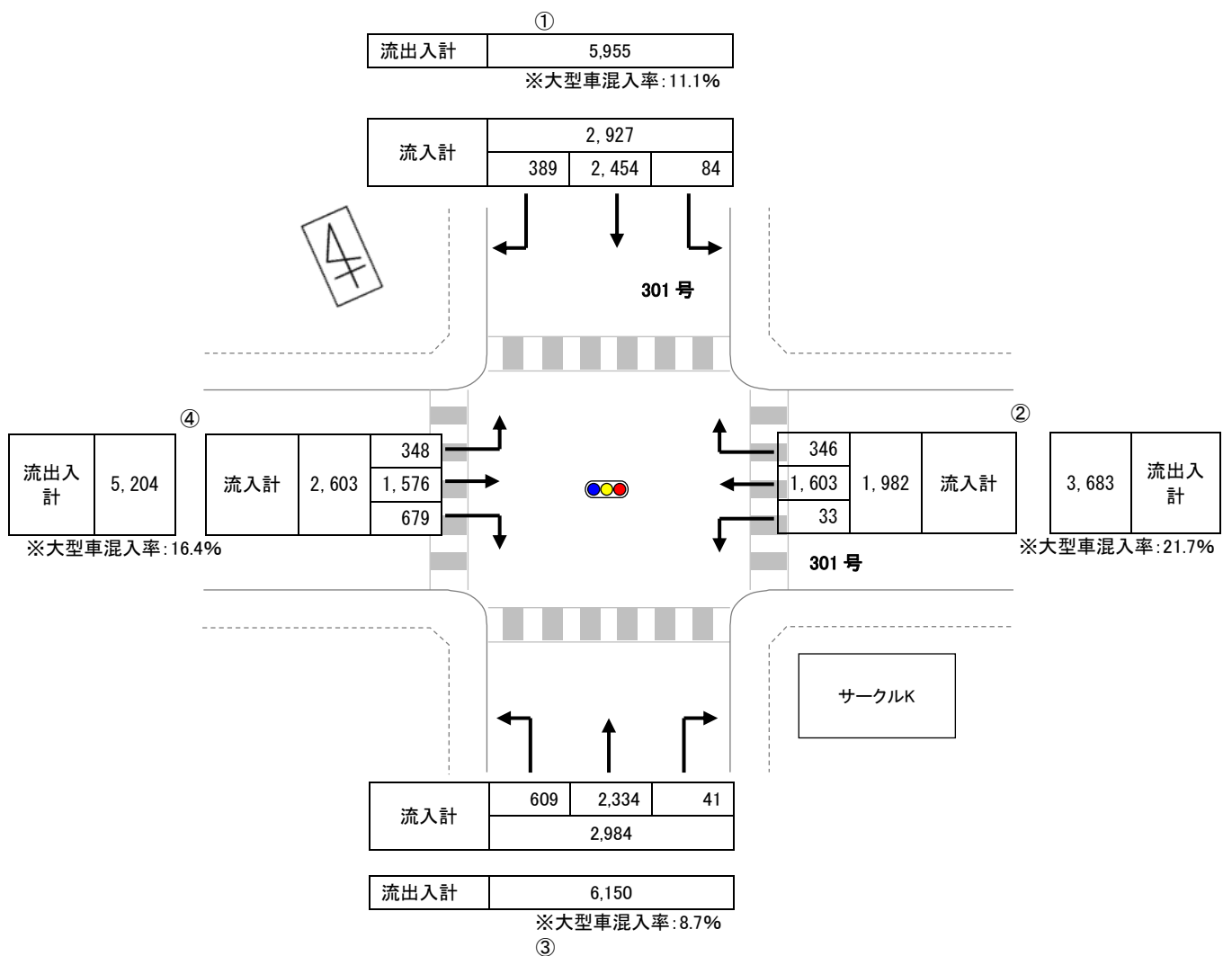
■ 方向別交通量現況

自動車の交通量は、地点①が流入、流出ともに 3,000 台程度であった。地点②は流入、流出ともに 1,500 台程度であった。地点③は流入、流出ともに 3,000 台程度であった。地点④は流入、流出ともに 2,500 台程度であった。

流出入交通量における大型車混入率は地点①は 11.1%、地点②は 21.7%、地点③は 8.7%、地点④は 16.4%と北東-南西方向の数値が高い。

二輪車の流出入交通量は地点①が 41 台、地点②が 43 台、地点③が 51 台、地点④が 59 台であった。

【自動車の地点別、方向別交通量の概況】

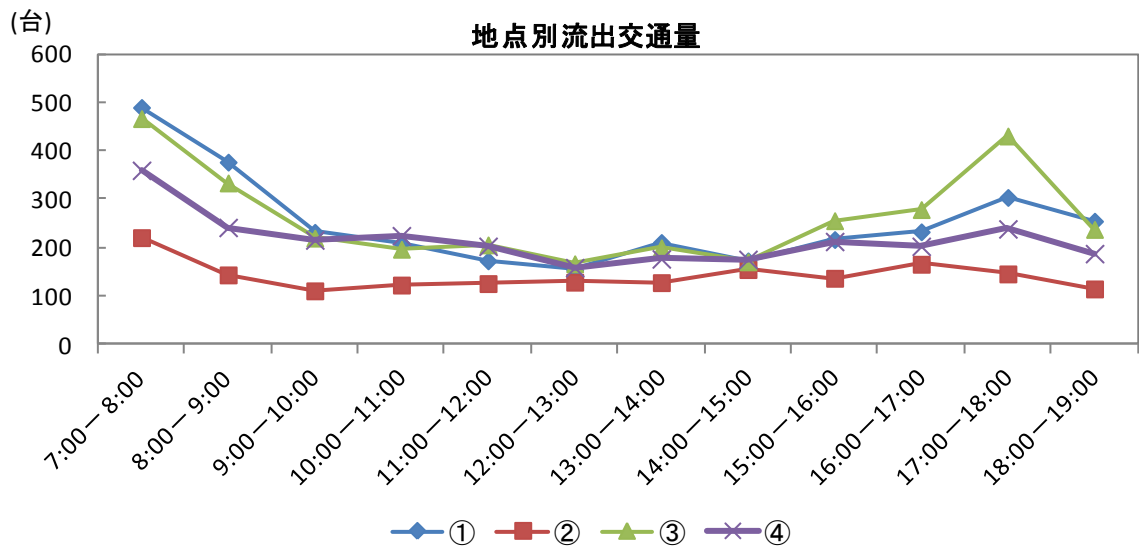
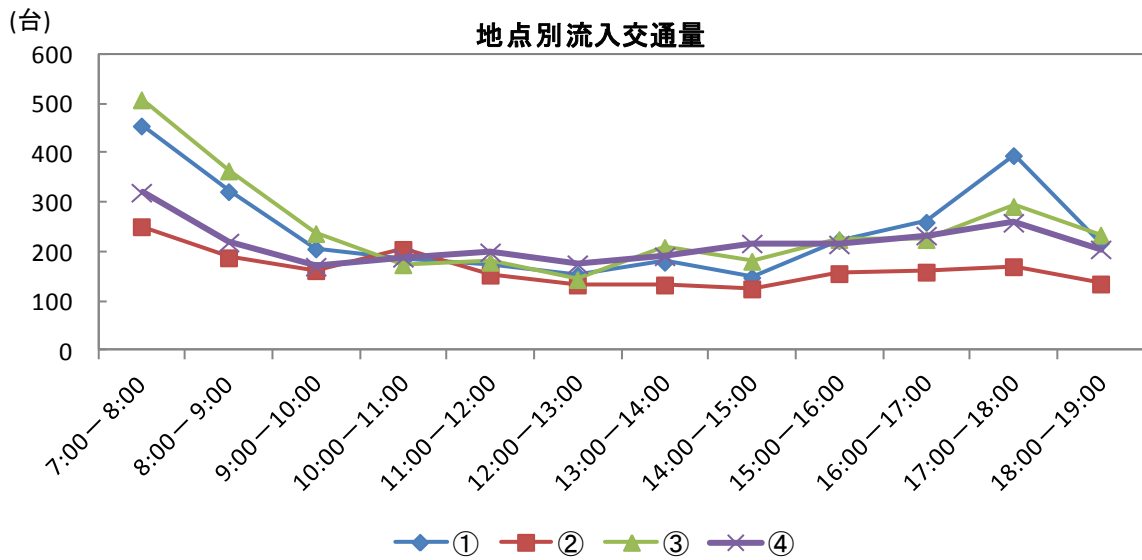


■ 時間帯別方向別自動車交通量

時間帯別の流出交通量を整理した。

午前はどこも流出入ともに7:00~8:00にピークがある。また、流出入ともに午後でも地点①、地点③、地点④は17:00~18:00にピークがある。

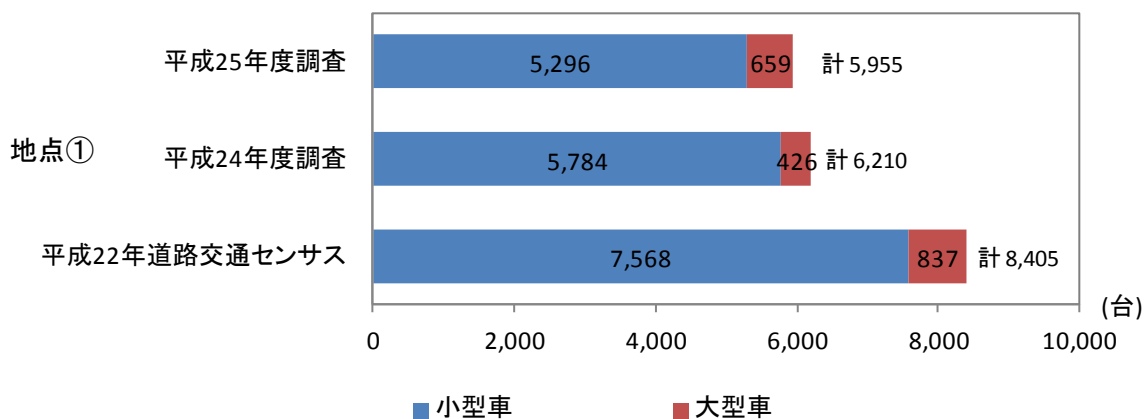
このことから、交通の方向によらず朝、夕に交通量が集中する箇所といえる。



■ 流出入自動車交通量の変化 (H22 年、H24 年度との比較)

地点①の流出入交通量は平成 22 年から大きく減少している。また、大型車の交通量も減少している。平成 24 年度と比べると自動車交通量は微減し、大型車は増加している。

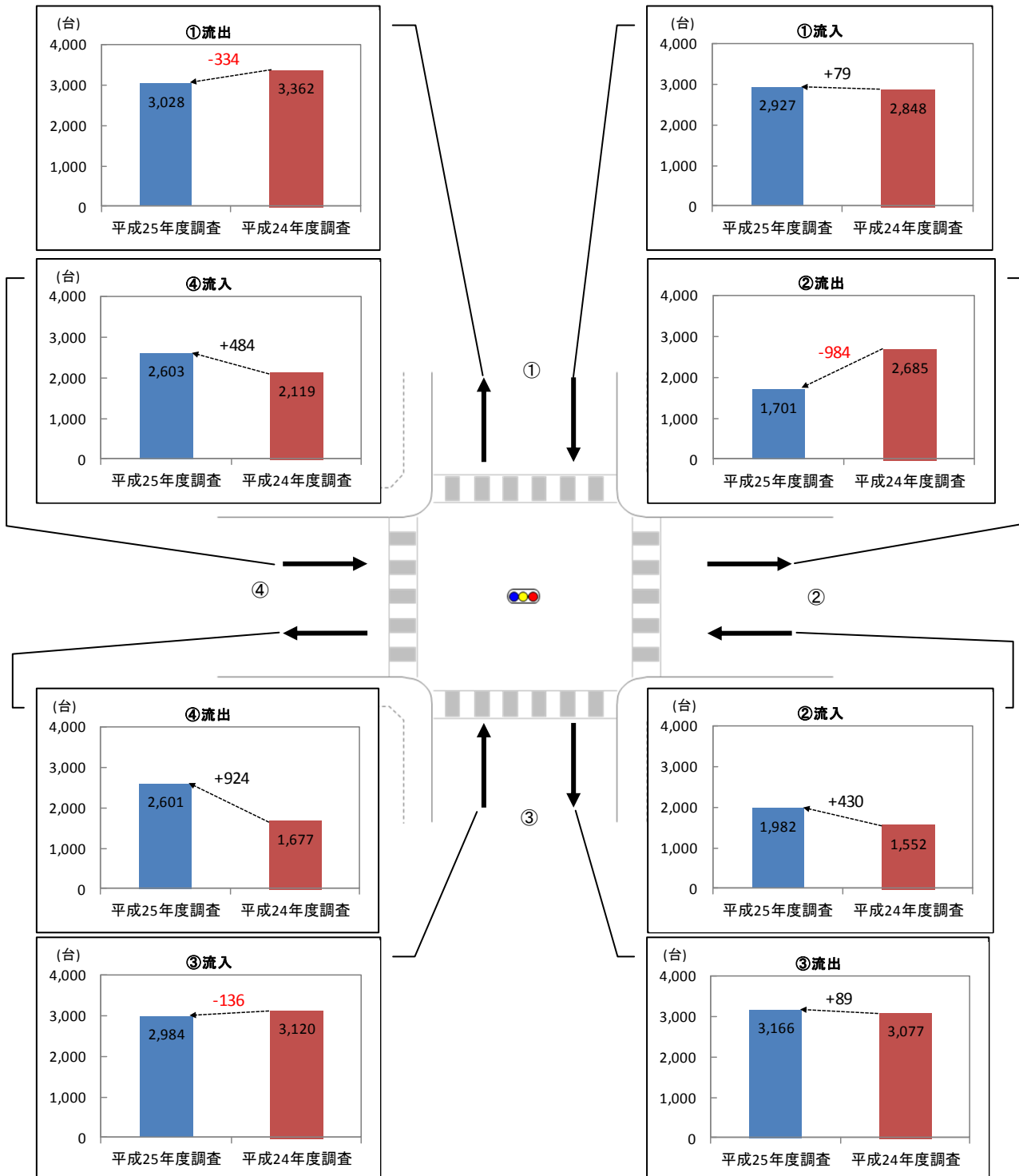
新城市内から南方へ向かう交通や、南方から新城市内に向かう交通が国道 301 号線を利用せずに、新東名高速道路と国道 257 線など他の経路を利用するようになった可能性が考えられる。



■ 方向別自動車交通量の変化 (H24年度との比較)

地点④の流入、流出交通量と地点②の流出交通量が大きく増加している。一方で、地点②の流入交通量は増加している。南方から新城市への交通が国道 301 号線と県道新城引佐線利用するようになったと考えられる。

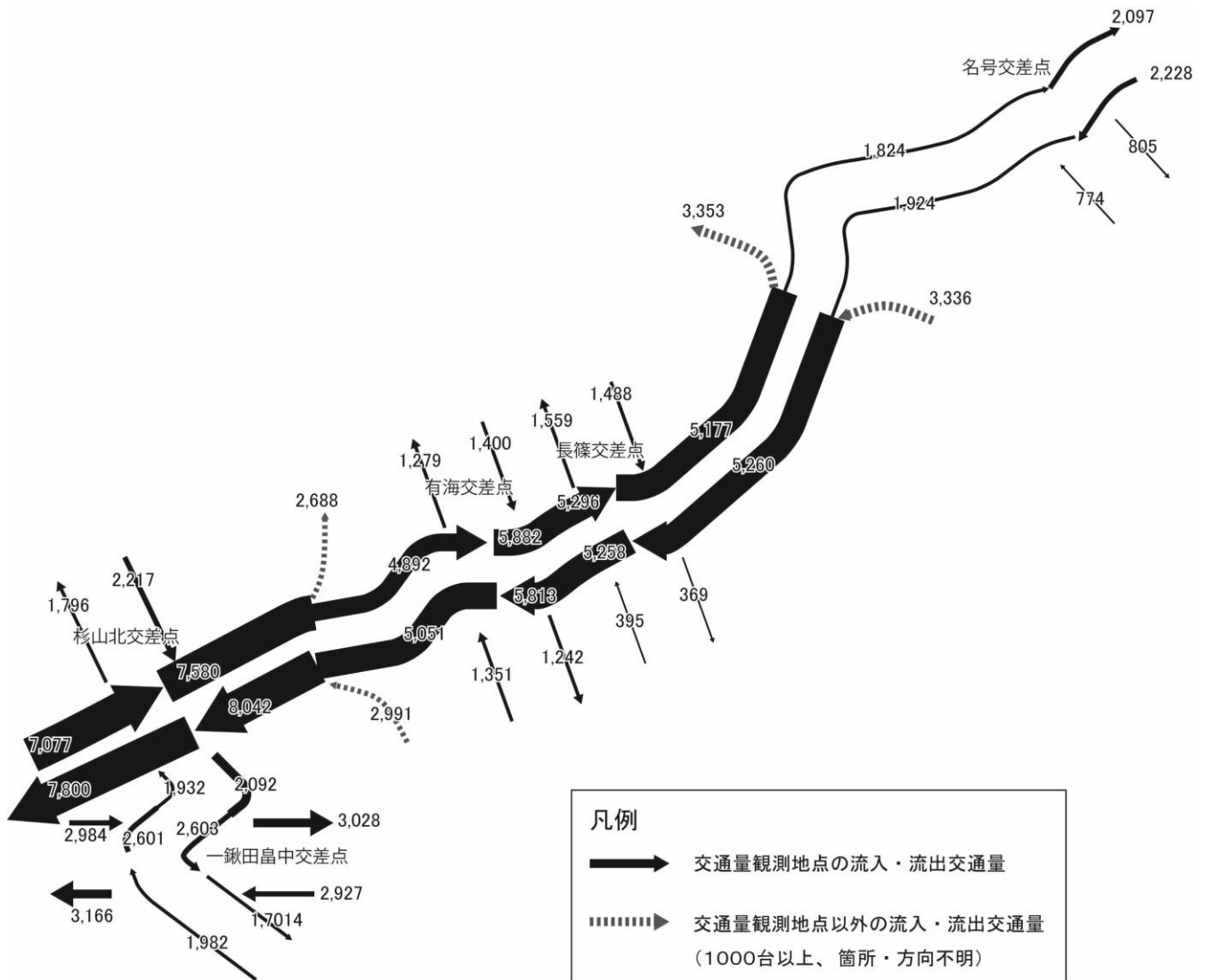
逆に新城市から南方への交通は、国道 301 号線を利用せずに、新東名高速道路と国道 257 線など他の経路を利用するようになった可能性が考えられる。



3. 自動車交通量全体図（12時間交通量）

調査地点全体の交通量の調査結果を図に整理した。杉山北交差点周辺が最も混雑しており、そこから、北東側では交通量が少なくなっている。これは、長篠交差点の東側で新東名高速道路に接続する国道257号からの多くの流出入があるためだと考えられる。

調査箇所以外では、名号交差点～長篠交差点間と有海交差点～杉山北交差点間の流出入が多く。有海交差点～杉山北交差点間は市街地の交通の流出入が起きていると考えられる。



4. 調査結果のまとめ

(1) 全体の傾向

- ①国道 151 号線を通る自動車交通量は平成 22 年、平成 24 年度と比べて増加している。
- ②自動車交通量が増加する一方で、151 号の大型車の交通量は減少している。

(2) 新東名高速道路及び三遠南信自動車道の開通の影響

- ①名号交差点では、国道 151 号線の新城市内方向の交通量が平成 22 年比で大幅に減少し、鳳来峡 IC の交通量が増えていることから。新城方面に向かわず鳳来峡 IC で三遠南信自動車道を利用する自動車が増えたと考えられる。
- ②一方で、長篠交差点では東側の流出入が非常に多く、国道 257 号と新東名高速道路がよく利用されていると考えられる。
- ③国道 151 号線の大型車交通量は減少しており、今まで市街地を通過していた貨物車等が新東名高速道路や三遠南信自動車道を利用するようになったと考えられる。